

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 総会理事長挨拶／P.2 自然部会観察会／P.3 堆肥化実験／P.4 生活部会／P.5 企画屋エコツアー／P.6 竹炭プロジェクト／P.7 とよなか市民環境会議／P.8 今後のスケジュール

2009年(平成21年)秋号 NO.28 (通巻第46号)

2009年度の総会を盛会裏に終えて

6月17日15時30分から開いた、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の2009年度総会は会員183人中出席68人、委任状69人を得て有効に成立し、予定通りの議事をこなして、16時20分に無事終了しました。なお総会に先立つ記念講演は「地域に根ざした環境のまちづくり」について堤幸一さん(特定非営利活動法人カーボンシンク)の話を聞きました。続くとよなか市民環境会議の総会では、規約の一部改正を含む総会議案が審議されるなど中身の濃い議事がすすめられました。以下は新開理事長のあいさつ要約です。

「NPO結成後も多くの種をまいてきました」 ——新開理事長のあいさつから

今年も私たちの活動は、待ったなしの状況にある地球温暖化防止と切り離すことができません。政府は先日、やっと「2020年までに温室効果ガスの排出量を2005年比で15%減とする」中期目標を発表し、具体案として太陽光パネルの設置、エコカーの導入、省エネ住宅推進の方針をだしました。

ところが一方で高速道路千円乗り放題の政策があります。その経済効果と、それによる二酸化炭素排出量の増加についても、知りたいところです。同時に、自転車道の整備や、バス・電車などの公共交通に対する積極的な支援策について素朴な疑問も浮かんできます。

豊中市の「チャレンジマイナス70」の温暖化防止計画を受け、私たちは昨年からの計画の推進のための仕組みづくりに取り組み、今年度は、省エネ機器、省エネ住宅とエコポイント「とよか」の普及に向け、まちの電気屋さん、建設業関係、および商店街の皆さんのご協力を得て、省エネ相談会を市とともにスタートさせました。この取り組みは新しい関係を構築し、新たな価値観を作る機会になりました。

かえりみますと、私たちの組織はNPO法人になって5年を経過し、1996年に発足したとよなか市民環境会議から合わせると13年が経ちます。法人

になってさらに活動の幅を広げ、多くの種をまいてきました。そこで、発足当時から現在までを総括し、足跡を残すため、活動記録集『(仮題)協働の方程式—10年の歩み』の編集作業もすすめています。

大事なことは、これまでの経験と蓄積、課題の整理と評価が、私たちの力量を大きくするのに有効に働くか否かです。ご協力いただいたアンケートやヒヤリングも分析しました。私たちに必要な人・金・物・情報は何が十分で何が不足か、不足をどう解決するか、5年を経過した組織に問われております。

私たちの目的は「豊中アジェンダ21」を推進することです。理念、目標数値等を共有する「豊中アジェンダ21」と「環境基本計画」の見直しを今年度から始めます。

多くの市民や事業者の意見を反映し、策定したものが市民の行動計画として実行に移されるよう期待を込めて活動します。記録集「10年の歩み」で総括されることが、日常に生かされることを望んでいます。

つい先日、月探査機「かぐや」が月面に落ち役割を終えました。「かぐや」から送信された地球は青く美しく輝いていました。こんな素敵な地球を未来に引き継ぐ責任を強く感じました。

私たちの活動は地域に根ざしながらも、広く世界と次世代の子供を視野に入れて行動しなければなりません。新しい年度もともに力をあわせ、楽しんで活動に取り組みましょう。(奥野)





自然部会

千里川魚類調べと生き物観察会



いつも天気心配な観察会ですが、7月18日(土)は幸い曇り空で、天気予報も降雨は無く一安心でした。現地スタッフは、早朝から箕輪小橋手前の階段で河原へ降りた広場に本部の設営。受付は豊中駅人口広場9時集合でしたが皆さんは網やバケツ持参で早い時間から来られました。幼児(0歳児や2歳児)も、800m位を歩き無事河原に到着。テント内に魚も事前採集されて準備完了でした。参加者数は、毎年参加の泉丘こどもひろばの皆さんも加えて、16家族、1団体、

子ども38人、大人25人、計63人でした。

講師は2007年に実施した千里川魚類調査で中心的に活動された柿本修一さんです。資料をもとに、観察要点や安全注意事項、時間確認の後、魚採りの開始です。草陰の生き物を、タモ網と足を使って上手に捕獲している子。また、昔に覚えたジャコ捕り技を教える方、お子さんそっちのけで夢中の方。約1時間の捕獲タイムのあと、同定会です。魚類は、府絶滅危惧Ⅱ類のメダカ・ドジョウ、2007調査でいなかったカマツカなど、11種を確認。豊中では絶滅と思えた、ツチガエルも確認。網を入れるとミナミヌマエビが必ず入っていましたし、シジミもありました。持ち帰り飼いたい子もいたのですが、ブラックバス等特定外来生物以外は川に戻しました。その他、ヌートリアの巣穴やフンも沢山あり驚きましたが、ハグロトンボ等トンボを5種見ました。最後に岡恒夫さんから、河原で採取した植物やカヤツリグサの遊び方の紹介があり、盛り沢山の観察会でした。11時30分現地解散後、本部の撤収、スタッフも無事解散。水辺は、多様な生き物が生息していて、自然を学ぶに適した場所であることを再確認しました。(上田峯子)

猪名川自然林の保全と観察会

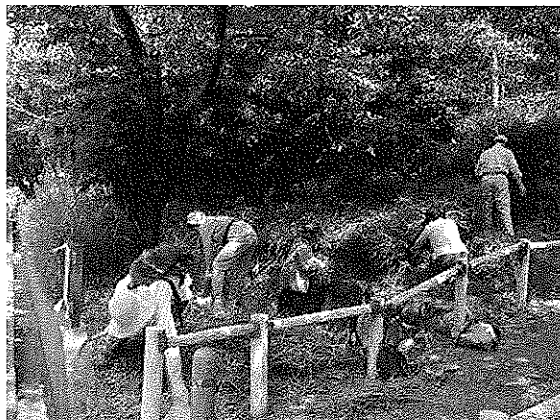
今年4月から自然部会の仲間に入り、6月19日に旧猪名川堤防の整備に参加しました。杭を20本持って行くと打合せしていたので、どんなことをするのだろうと期待と不安の中で市役所からバスで現地に向かいました。

杭係・倒木係・笹係に分かれて作業が始まり、慣れない手で鎌を持ちシャキシャキと笹を刈り、刈った笹を樹木の根元に集めていきました。6月に入って初めて気温が30度を超える日でしたが、木の陰での作業はやりやすく1時間余りいい汗を流しました。

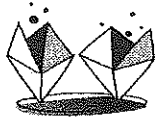
疑問だった杭は土手に等間隔に打ち込んで支えにし、倒木や枯れ木を切って積み上げ、流れ落ちないようにするものでした。自然部会では、持ち込まない・持ち

出さないを原則にしていることを知りました。

その後、堤防の樹木を観察しながら歩きました。幹の周囲170~200cm、高さ20m前後の木々が立ち並んでいました。「この木は？」と聞けば、「ムク、エノキ、アキニシ、ヤブニッケイ」等とすぐ答えてくれる部会の人たちがいます。覚えたような気になりながら、20年ほど前、猪名川の橋を渡ったところに豊中市利倉西があるのに驚き、蛇行した猪名川をまっすぐつけかえ、旧猪名川の堤防がそのまま公園として残されていたことをそのと



き初めて知り懐かしい思いで参加しました。これからも自分の住んでいる豊中のことを知りたいと思っています。(馬淵康子)



花と緑のネットワークとよなか

給食で残ったパンの堆肥化実験を開始

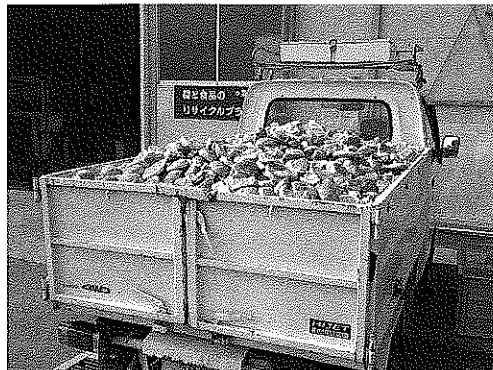
実現すれば給食残渣類のすべてを資源化へ

豊中市緑と食品のリサイクルプラザでは昨年からは給食献立に出された残パンの堆肥化実験を進めていますが、去る6月末から7月初旬にかけて6回にわたって再実験を行いました。

この実験、従来はパンの納入者が引き取っていたものを資源化できるかを検討するもので、堆肥化施設のシステムに著しい変化をもたらさないで処理できるかを探っています。

現在は給食の調理屑と食べ残しに街路樹等の剪定枝を堆肥化装置の混合機に投入し、4日間の発酵を経て第1次熟成槽に移送し、1か月の発酵・熟成の後、第2次熟成槽で約2か月熟成させて完熟堆肥（土壌改良材「愛称：とよっぴー」）として製品化しています。

実験途中で判明したことは、パンの場合は非常に嵩（かさ）が大きいので、一番多く残パンが出た時



学校給食で残ったパン1日分

（約370kg「軽ダンパー一杯分」）は混合機には投入することが不可能なため、一部のパンを微粉化する作業が生じたことです。また、混合機に投入しないで、しかも微粉化しないで直接、第1次熟成槽に投入した場合、固形物であることから発酵・熟成に非常に手間がかかり、あわせてパンの中に水分が混入することによるシステム障害が懸念されています。そのため、施設の担当者に過重な負担を掛けないことを前提に、システムとしても機能することとあわせ最適な方法があり得るか、いろいろな方法を模索して実験を行っており、現在は進行管理の最中です。

焼却しないで資源化することは最も大切なことであり、市も施設担当者も、そして花と緑のネットとしても知恵をお互いが出し合いながら、10月初旬（完熟時期）に期待を繋いでいます。

（中村義世）

給食は「食教育の場」としての位置づけ

去る7月10日（金）に服部学校給食センターへ、当日食材用としての「とよっぴー」を使って育てた玉葱約300kgを納入しました。

そして給食時に、庄内西小学校の5年生の教室を高島さんと訪問しました。子ども達は、豊中産のとよっぴーを使用した玉葱作りの話を聞き、驚いたりびっくりしたりと、教室中は盛り上がり残さず完食です！

ところで学校給食法が改正され今年4月から施行されました。今回の改正は「学校給食の目標」が大幅に拡大されたことです。「食」を取り巻く社会的な意味も含めた、広い視野での「食教育の場」として学校給食が位置づけられました。

又、この法律は食育推進基本計画の方針に沿ったかたちで、地場食材を教材として活用しながら食教育を進める方向に転換したことにもなります。

今年4月に改正されたのは、学校給食法だけではなく、学校教育の方向性を示す「学習指導要領」も

7/10(金) 切干大根のみそ汁

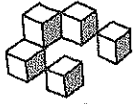
豊中育ちの玉ねぎです!

きょう しる、ほい たまぎ
今日のみそ汁に入っている玉ねぎは、
とよなかのし ほま たかかわしやう おそねしょうこうく
豊中市の浜(高川 小・小曾根小 校区)や
母なるがけ 母たるがけしょうこうく つく
蛸池(蛸池小 校区)で作られたものです。
のうか ひと のちやく つか
農家の人が、農業を使わずに
たいせつ もだ
大切に育ててくれました。

「新学習指導要領」に切り替わりました。ここでも、「環境・食育に関する学習の充実」が重要事項に盛り込まれました。

このようなことから、学校菜園へのアドバイス、学校給食への地場産野菜の納入と引き続き努力が必要と痛感しております。

（岸田興次）
（JAグループ「家の光」9月号の一部記事を抜粋しました。）



生活部会

楽しかったお茶摘みの体験

5月30日無農薬栽培の茶園に行きました。参加者は計37人、それに部会員のドイツからの友人も特別参加して盛況でした。まず木陰で持参の弁当を広げて腹ごしらえ。生産者の嵯山さんから茶栽培と茶摘みの仕方の説明を受けました。手摘みはお茶の新芽を人指し指と親指で挟んで、親指で押し切ると簡単に摘み取れます。鮮やかな新芽の輝きは見ているだけで感激。あっという間に時間が過ぎました。

山間の茶園にある小さな池の傍の藤の枝にモリア



オガエルが産卵中、滅多に見られない光景に見とれる一幕もありました。

第2部は製茶場の見学です。蒸し・もみ・よる、そして乾燥させます。全部一人でこなす嵯山さんの機械操作の実演と説明に熱心に聞き入っていました。

煎茶のほか紅茶も造っていました。帰路は高速道路沿いの新緑を愛でながら、無事5時前に豊中に帰着。当日、「舞鶴市民新聞」の取材があり、6月5日の夕刊に写真入りで私たちの活動が掲載されていました。(宮田健)

「モニター倶楽部」の通信から

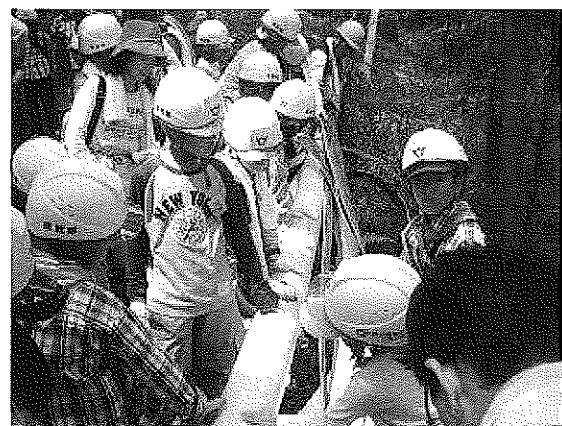
「20年前の電子レンジが故障したので買い替えたら安かったのと、調理時間の短いこと！ これもエコにつながるのかな」—20年前に比べもちろん安くなってますし、基準エネルギー消費効率も70%台へ下げようようにされていて、多くの製品が基準をクリアしています。容積30リットル未満の電子レンジだと目標の73%を達成しているものは15品目のうち11品目ありました。(緑のeマーク)

滋賀県甲賀市、上下流連携森づくりの集い

7月26日(日)に上下流連携の森づくりの集いが開催されました。甲賀愛林クラブの主催、滋賀県などの支援により滋賀県甲賀市の山林で毎年行われている活動です。とよなか市民環境会議アジェンダ21と、とよなか消費者協会が募集した親子44人に、現地の少年団や子ども会からの参加とあわせて、今年は例年より多い120人規模となりました。

午前中は森づくり活動として、スギ・ヒノキ林にて皮はぎ間伐の体験を、午後からは里山体験として、間伐材を使った虫かご作り体験や昆虫探し、シイタケ採りと試食などを行いました。雨の後のぬかるむ山の斜面での間伐体験などは、豊中の子どもたちにとって、普段はできない貴重な経験になったと思います。

こうして整備された甲賀の山林は、琵琶湖に流れ込む川の水源の一つとなります。琵琶湖に流れ込んだ水は、瀬田川・木津川を経由して淀川に入り、私たち豊中市民の飲み水にもなります。また、木材資源としても、酸素供給源としても森づくりは欠かせ



ヒノキがツルツルになりました

ません。今回、豊中に住むたくさんの親子が森づくりの集いへ参加しました。私たちの飲み水のこと、上流の豊かな森のことなど、少しでも知って・考えてもらう機会として、また、上下流がさらに連携していくために、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。(廣田学)



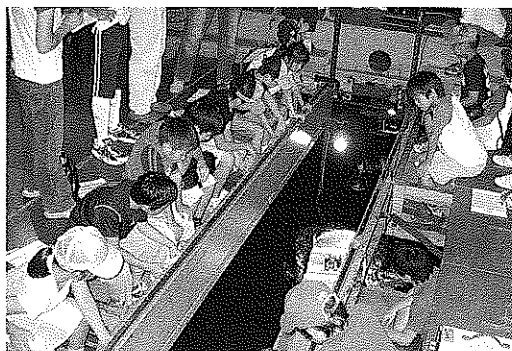
企画屋本舗

エコツアー・海の日限定大阪大学キャンパス周辺

7月20日(月・祝日)5家族20人(スタッフ含む)
今回は、大阪大学船舶海洋試験水槽公開、大型コンテナ船が波の中で大きく揺れる実験の見学を中心に、自然が残る吹田キャンパスを歩きます。集合の千里中央からバスで大阪大学本部前に移動、そのときのバスが偶然ハイブリッドバスであったことから、少し環境に優しいエコツアーの始まり。

大学内のバス停から並木道を歩き、実験水槽に向かいます。見学までの時間を使い「阪大クイズ・海の日クイズ」を行いました。皆さんはこのクイズがわかりますか。「阪大のマークは銀杏ですが、登場したのは2億年以上前です。本当か、うそか」答えは「本当です」次は、広い所に立ち、水平線を見ることがありますが、その水平線までの距離は、どれくらい?」答えは「4.5キロメートル」地球は大きな球体ですが、見える範囲は狭いことがわかります。

さて実験に移りますが、ここでまずコンテナ船横揺れ原理の説明を聞きます。原理はブランコと同じで、重心の上下で振れが大きくなります。つまり波の波長が船の横揺れの2分の1の間隔で来ると、横揺れが大きくなり、荷崩れをおこす原因になります。(原理は簡単でも難しい)次は実験水槽に3メートルの船の模



型を浮かせ、間隔が1.4秒・1.8秒・2.4秒の波を作り、どの波が一番横揺れが大きいかを実験します。

実験前に子どもたちに予想してもらい、正解者には記念品の贈呈があると聞き、子どもたちは真剣に実験を見つめます。波を作る装置を使い、横揺れの程度をコンピューターで分析した結果、1.4秒間隔の波が一番大きな横揺れを起こしました。船の前方から波を受けるだけで、横揺れする船を見て、難しい原理を感覚的に理解できた実験でした。

実験後は、場所を移動し、企画屋本舗が行う「日食観測の話と太陽エネルギーの模擬実験」を行いました。

7月22日は大阪でも部分日食が見られますが、黒色の下敷きで見ると紫外線や赤外線を通します。太陽は非常に大きなエネルギーを出しており、少し暗くなくても目にダメージを与えます。(気を付けよう)

次に丸いボールに海水の青色、陸地の茶色、木々の緑、雲の白色を塗って地球を作ります。月は地球の4分の1だからこの玉ぐらい、それでは太陽は?なんと、運動会で使う玉ころがしの玉ぐらいあります。子どもの目が輝きだしました。

木立の中で海の実験、宇宙の話、子ども(大人も含めて)の興味が尽きることはありません。(池田一夫)

環境とわたし

《22》

柴田起夫さん 生活部会



環境に私がどう動き、どう感じてきたかを簡潔に披露します。

① 2002年、公募市民としてごみ減量対策の検討でごみの分別強化を望み、生ごみ処理は都市型の問題として国による開発を。ごみ袋のサイズ別対価(寄付でも可)を高めに定め排出量を家毎に一段と小袋で済ませるよう誘導などを提案しましたが…。 ② 働かずに食うを潔しとせず、遊ぶ合間の市民環境の奉仕を心がけて来ましたが、部会は会員の固定化と高齢化が進むばかり。他利を忘れた自利追求の風潮に嘆き。

③ 環境家計簿で我が家のCO₂発生量を管理し、モニター平均の2割以下を維持。誰も3年真面目にやれば2割減は楽。最近の省エネ器具ならもっと楽勝。将

来は新エネに期待。買替えのほか物やエネルギーを大事によるこんでいただく古来の作法で省エネが達成できます。暗い部屋の私に「父さんモグラになったか」と声がかかる。「静かでいいよ」と答。 ④ 3年も環境家計簿をつけて管理すれば卒業免状を貰って止めてもよいのでは。まだの市民にリレーして大部の市民に順次普及させる制度を。環境会議アジェンダ21の他部会員、市職員、議員の家計簿への参加が僅少なことは重大な問題。自ら実践しないで市民に期待は無理。世界も同じで融和と信頼の心で率先実践しましょう。



竹炭プロジェクト

1年が経過した新千里北町の間伐作業

新千里北町は毎月1回の作業で、メンバーはつねに10数名が参加して活発に活動している。

今では大分整理が進んで竹林が透けて見えるようになってきた。竹林内を見回して見ると全体的に樹木が少ない。そんな中でも一番多いのはニセアカシアである。しかしそれが、15cmほどの太さで枯れているものが沢山ある。それだけ竹が繁茂して陽が当たらなくなっていたためであろう。

他にはコナラ、クヌギ、アベマキ、トウネズミモチ、アカメガシワなどであるが、いずれも本数が少なく樹種も少ない。めざすのは木竹混生林である。間伐の効果で実生が散見されるようになったので、しっかり根付いて欲しいと願っている。

ところで、話はちょっと変わるがこの2月アメリカ人が竹切り体験ということで訪ねてきた。彼は30歳代の長身で、竹に大変興味を持っているサムソンさんという方でオレゴン州の出身である。

当日は朝からどしゃ降りとなったが、大きなリュックを担ぎながら元気に現れた。体験は雨のため製品作りに切り換えた。背が高いのに管理事務所のテーブルは低くてやりにくそうであった。にも拘わらず竹炭をノコギリでカット、煤はらいも気にすることなくブラシがけを皆と同じように行っていた。彼は日本語が上

手でよく喋るが、聞いてると竹切りは経験しているが、製品作りは初めての体験ということで喜んでいただき、かえって雨が降ってよかった。現在オレゴンに竹林を育成中とか。



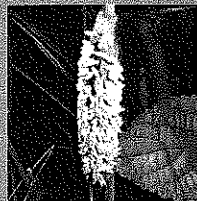
欧米には自生種の竹は殆ど無いことが逆に興味を持ち、将来は竹に関する幅広い事業を考えているようである。帰り際にドラム缶窯を見て写真を撮っていた。炭焼きの参考にするものと思われる。彼の積極的な行動力、熱心さに感心させられた。お土産に竹炭、竹酢液、ブラシもあげたら大喜びしていた。

われわれの間伐材の活用量は微々たるもので、大部分は野積みをして自然に還している。竹の成長が待ちどおしい彼が見たら、喉から手が出るほど欲しいに違いないと思った。

さて、新千里北町での活動は来年3月までには一通り終了したいと考えている。その後ここは年数回の間伐を行いながら管理して行く予定である。今は市有地の手入れがなされていない場所の間伐を最優先とし、新たな場所への移動を考えている。(三宅史郎)

環境クイズ これ、なあに？

①はな ②むし ③ごみ
(こたえは8ページ)



豊中まつり——今年の環境情報サロンでは

8月1日、2日に行われた豊中まつりは、いつものように盛大な人出でしたが、アジェンダ21としては今年も環境情報サロンの内外を十分に活用し、豊中まつりに協賛してちょっとした催しなどいくつかをおこないました。

サロンの前では竹炭と竹酢液の販売、毎年のお店なのでリピーターも定着してきたよう。今年は『赤ちゃんからのESD』による、陶器とりかえ隊が食器を並べて交換会を催していましたが、なかなかの人気でしょっちゅう人だかりがありました。

サロンの中では、2日も自然の材料を使って工作。ぶんぶん独楽など、ちょっと色を塗って遊んだりして、子どもたちに人気で、2日間を通して90人の参加がありました。1日だけでしたがサロンの2階では写真立ての小さな額縁でツールペインティング。宣伝不足もありましたが5人が参加し、わずかな時間でしたがそれぞれにユニークな作品を作ることが出来ました。スタッフもあわせ2日間の来館者は169人。サロンのパネル展示もしっかりと見てもらいました。(奥野)

とよなかエコ市民賞2009

—環境活動団体を募集します—

応募期間：平成21年(2009年)8月3日(月)～9月30日(水) (消印有効)

? とよなかエコ市民賞って何?

とよなかエコ市民賞は、市内で環境負荷の低減、自然との共生、快適環境の創造などに取り組み、継続した活動実績や特に顕著な功績が認められる団体を、「とよなか市民環境会議」(会長：浅利敬一郎豊中市長、142団体)が表彰し、市民の環境活動の輪を広げようというものです。

? 表彰されるのは、どんな団体?

市内で下記のような環境活動を行っているグループや団体、事業者、学校、施設などおおむね5団体を表彰します。

- 循環型社会形成につながる取組み
- 省エネルギーの推進
- 温暖化防止につながる取組み
- 自然環境の保全にかかわる取組み
- その他環境にかかわる取組み

【応募資格】

下記の(1)(2)のどちらかの要件を満たす団体。
 (1) 環境報告書「とよなかの環境I」に活動実績が掲載されている団体。

(2) 一定期間の活動実績(下表)があり、将来にわたり継続する見込みがある団体。「とよなか市民環境会議」構成団体の推薦が必要です。

・活動実績年数

活動の頻度	継続年数
毎日の活動	1年以上
毎週の活動	2年以上
毎月の活動	3年以上
毎年の活動	5年以上

※なお、上表の年数を満たしていない場合であっても、その活動が特に顕著で多大な成果があると認められる場合は、この限りではありません。

? いつ、どうやって表彰されるの?

平成22年(2010年)2月16日(火)に予定されている「ストップ地球温暖化デー」の催しで表彰します。

! よし! 応募しよう!

応募要領・応募用紙は、豊中市役所環境政策室にあります。また、豊中市のホームページからもダウンロードできます。

豊中市ホームページ:

<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/top/kankyuu/index.html>

環境フォーラム2009

「次代に手渡す豊中の環境とは？」

と き：9月12日(土) 13:30～16:30

と ころ：千里公民館

【第1部】 豊中の環境の現状報告(13:30～)

「とよなかの環境I～2008年度活動実績～」より

【第2部】 ワークショップ(15:00～)

「10年後の豊中! ああしたい&こうしたいワークショップ」

主催：豊中市 共催：とよなか市民環境会議・NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ21

問合せ・保育申込み先：豊中市役所 環境部環境政策室 TEL 06-6858-2127

豊中の環境について、市民のみなさんとともに考えます。ぜひ、ご参加ください。

入場無料!
一時保育あり
(有料・事前申込み)

～省エネにおきて～

今年度、地球温暖化対策におけるモデル事業として、省エネ相談会、省エネ診断を実施しています。省エネ相談会は、市内の商店街のイベントなどで開催しており、省エネ診断は、事務局(アジェンダ21)にて申込受付中です。

参加者へは、エコポイントチケット「とよか」をお渡ししています。「とよか」については前月号参照是非一度ご参加いただければと思います。

スケジュールのお知らせ

竹炭焼き、竹きり (9月~12月)

毎月実施します。 9時~12時
千里中央公園他 詳しくは事務局まで

おもちゃ病院 (10月、12月)

第2土曜日 10時~12時
環境情報サロン (12月は環境展会場)

とよっぴー有料頒布 (9月~11月)

第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ
(12月は休みます)

秋の鳴く虫観察会

9月18日(金) 18時~20時
服部緑地東中央広場集合

楽しい手作り講習会・おもちゃ編

「ちびっ子集まれ! 作って遊ぼう!」
10月3日(土) 13時30分~15時
環境情報サロン

自然学習講座

「都市の虫たちの生存戦略」
10月3日(土) 14時~16時
蛍池公民館

編集室から

▼加齢とともに痛感するのが脳の衰え。それが何とかならないかと気にして最近知ったのは、人間の脳が案外可塑的で、衰えている瞬間記憶などが別の回路で補うことができそうとか。そんな脳の働きを確かめようと理屈をつけてはパズルで遊んでいる。(Z)

▼冷蔵庫の製造から廃棄までにかかるエネルギーのうち約9割がその使用中にかかると聞きました。そこで省エネ冷蔵庫に買替える費用のうち節電達成できる料金5年分にあたる金額を無利子で融資しているNPOがあるとか、ふむ頼もしい!(Y)

▼8月初め、1泊2日で富士登山をしました。頂上は老若男女で大変な賑わいでした。幸い好天に恵まれ「お鉢巡り」の途中の剣が峰でご来光を迎えました。富士登山は山開き(7、8月)の期間にのみ解禁。里山登山の体力で登れます。(S)

▼朝、空を眺めると、青い空の中を白い入道雲がゆっくり移動している。そんなきれいな空を見ていると、慌ただしい毎日の中で忘れがちな深呼吸することを思

い出し、自然から元気分けてもらえる気がします。(KS)

▼最近、環境情報サロンに置いてある資料や物品を整理しはじめました。活動の積み重ねの中でモノが増え、収納することそのものが大変になってきたからです。サロンが少しずつ片づいていく一方、自宅の部屋は最近少しずつ大変なことに…。(A)

▼毛むくじゃらの末っ子は8歳、生後3ヶ月で家族になり、ずっと甘えん坊で今でも赤ちゃんのよう。食べることに熱心でいつも真剣、おやつのためなら覚えている特技をぜ〜んぶ披露。一途な信頼のまなざしにどれほど癒されるでしょう。人間なら48歳です。(P)

環境クイズの答 ②むし タケカレハ(蛾)の幼虫(約8cm)に寄生しているコマユバチ(蜂)のサナギです。産み付けられた卵が成虫になるまでタケカレハは生きています。「写真による豊中の“むし”調べ」むし写真の撮り方学習会にて撮影(6月12日島熊山緑地)

ご寄付のお礼

- ・定額給付金寄付キャンペーン(6月末現在)
新開悦子、宮田健、廣田学、大村靖子、
匿名2名(敬省略)
- ・その他の寄付
連合豊中様

ありがとうございました。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、KS長橋、A廣田、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp